第102号

慈光

静岡県浜松市中区鴨江三丁目四-三
（福）遠州仏教積善会　慈照園
TEL　〇五三-四五二-三〇六九
FAX　〇五三-四五二-三〇七四
url www.onyx.dti.ne.jp/~jishoen

居宅生活訓練開始から1年
5名が地域生活へ

毎日きれいにしています

26年度4月から開始した居宅生活訓練(施設で借り上げたアパートで生活訓練を実施、円滑に地域移行できるようにする訓練)を利用し5人の利用者が退園されました。今まで、地域生活(一人暮らし)に強い不安を持っていた利用者が、この訓練を利用することで、段階的に不安が解消されていき、地域移行に結び付きました。今後は、退園した方をどのように支援していくかが課題となります。

退園して間もなく、食生活が乱れ体重が3キロ増えた方もいました。慈照園が行っている通所事業だけでなく、行政機関、障害者相談支援事業所等との連携が今まで以上に必要になります。26年度に退所された5人の中では、訪問を利用している人が2名、デイサービスを利用している人が1名、就労し、単身生活、実家へ帰省した人が1名ずつとなっております。入所をしている頃から、利用者ご本人の課題に個別に寄り添うことにより、園から退所した後も良い関係を保ち安定した生活の維持に繋がっていきます。

シリーズ自立支援
～漢方薬の活用～

1月22日、嘱託医である神経科浜松病院の井口博登医師を講師に依頼し、「漢方薬について」職員園内研修がおこなわれました。慈照園では、精神疾患を抱えている人が多く、その多くが統合失調症です。漢方薬とは、伝統的な中国医学の一種である漢方医学の理論に基づいて処方される薬のことで、慈照園でも多くの方が服用しています。漢方薬の中でも抑肝散を服用し、イライラや興奮などの精神症状が軽減されたと実感された方がいます。

精神疾患を抱える人は、何より服薬が一番重要だと言われています。服薬の管理が不十分で、入退院を繰り返す人も多くいます。服薬の重要さや利用者が服用している薬について知識を深める研修となりました。

E-JAN WRAP　交流会
元気になる方法を考えましょう

2月27日NPO法人遠州精神保健をすすめる市民の会（E-JAN）と交流会を行いました。テーマはWRAP（ラップ）。アメリカで生まれ、英語の元気、回復、行動、計画の頭文字をとったもので、毎日心を元気よく過ごすために、自分で日々の生活を組み立てていく方法です。慈照園からは利用者40名、デイサービス6名が参加し、元気に役立つ方法を学ぶことができました。グループワークでは、支援員の方と一緒に学ぶことができ、職員にとっても、日々の個別支援計画を進めていく上で、良い経験になりました。

深呼吸も有効です

障がい者もスポーツを

2月11日静岡県障害者スポーツ協会が主催する、トライアル教室に8名が参加しました。中区のアイホールで開催され、たくさんの人が運動を楽しむことができました。

フライングディスク、ボッチャ、バルバレーなど、インストラクターの指導のもと和気藹々とした雰囲気で運動することができました。慈照園でも、クラブ活動として、ソフトボールやバレー、グラウンドゴルフなどを実施していますが、今回参加した教室では、普段できないスポーツを体験し、利用者の多くがまた来年もやりたいと話していました。

外壁・屋根・トイレ
大規模修繕

慈照園の建物が建築されてから22年が経ちました。年月の過ぎたことを物語るように、外壁には、浮いているところや、ひび割れているところが見られ、地震時の外壁の落下や雨漏りに繋がりかねません。そこで、平成26年11月から平成27年3月にかけて外壁・屋根の修繕工事を行いました。5ヶ月にわたる工事の為、近隣の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。

また、園内の設備も改修や整備が進んでいます。居室スペースがある2階の女性用トイレは、今まで和式と洋式一つずつでしたが、洋式に切り替わりました。和式では足腰がつらいという利用者も膝がつらくなくなって良かったと話しています。新しい設備と共に、より良い支援をしていければと考えております。

こだま

専門職である前に「人として」必要なもの

聖隷クリストファー大学
准教授　福田俊子

聖隷が社会福祉学部を開設してから10年以上にわたり、貴施設には社会福祉士の資格習得を目指す学生の実習を引き受けていただいてまいりました。今年もお世話になった学生6名が大学を巣立って行きました。

実習が始まった直後、学生は自分の居場所を見つけられずに、強い不安や緊張を抱えます。そんな学生を気遣い、声掛けし、学生の実習を引き受けてくださるのが、利用者の皆さんです。こうした何気ないやりとりを通じ、学生は「自分が利用者さんに助けられていること」に気づき、援助とは、さんから学ばせて頂いて「援助者が一方的に利用者さんを助けるものではないこと」を学びます。

一般的に実習は、「援助者として」必要な専門的な知識や技術を取得することが、目的であるとされます。しかし、実際はそうしたことよりも、学生は知識や技術といった専門職としての鎧を脱ぎ、「人として」謙虚な姿勢で人と向き合うことの重要性を、みなさんから学ばせて頂いているのです。この場を借りて、利用者の皆さまに改めて感謝申し上げたいと思います。

新しい年を迎えて

災害について学ぼう

名古屋市港防災センターで震度７の地震を体験

1月28日、一年の健康を願うため、新年の初参りをしてきました。

今年は、名古屋の熱田神宮参拝と名古屋市港防災センターの見学です。

天気にも恵まれ、利用者44名、職員6名が参加。名古屋市熱田区にある熱田神宮は、三種の神器の一つにあたる「草薙剣」を祀る神社として知られています。

広い敷地内を歩いて行く中で、二組の結婚式の様子を見ることもでき、新年の抱負を報告すると同時に幸せを感じることもでき、幸せを分けて欲しいと感じた利用者も多いと思います。

名古屋市港防災センターは、災害について、見て学んで、体験することができる施設です。震度７の地震や火事の煙を体験するスモーク体験、３Ｄ映像による伊勢湾台風の高潮などを体験しました。中でも、震度7の地震では、全く身動きがとれずに恐怖を感じる利用者がほとんどでした。気分が悪くなった人もいます。災害について多くを学ぶ良い体験になりました。利用者の杉本さんは、「本当に起こったら大変だ」と感想を話していました。

浜松市救護施設親睦カラオケ大会

第３位と特別賞を受賞

2月17日浜北文化センターにて、第25回浜松市救護施設親睦カラオケ大会が開催されました。今年度は慈照園が当番施設となり、各施設から出場者が参加をしました。

慈照園からの出場者はこの大会に向けて毎日のように練習を重ね、全員一生懸命歌いました。結果、テレサ・テンの『つぐない』を歌った大石香奈子さんが第３位。『長崎は今日も雨だった』を歌った中村威さんが審査員特別賞のなりきったで賞を獲得しました。また、慈照園からの出し物としてみんなで妖怪ウォッチ体操を踊り、和やかに大会を終えることができました。

自分の思いを言葉に

第27回　慈照園話し方大会

3月2日慈照園内にて話し方大会が行われました。話し方大会とは、利用者がそれぞれ自分で話したいテーマを決めて原稿を作り、みんなの前でスピーチする行事です。最優秀賞を獲得したのは、杉山雅彦さんで、テーマは「私の生い立ち」。自分が生きてきた人生を、世相を振り返りながら、聞いている人に語りかけるようなユーモア溢れるスピーチを聞かせてくれました。今年で27回を迎えた話し方大会ですが、今までいろんな生きづらさを抱えてきた人にとって、自分自身を把握する、良い機会になっていると感じます。

生い立ちについて語る

卓球・ペタボート大会

2月2日、慈照園にて卓球・ペタボートの大会が行われました。例年は2回に分けて実施していましたが、今年は1日で開催し、利用者同士で白熱した試合になりました。卓球の優勝は岡野浩三さんで、軽快な動きをみせてくれました。

ありがとう

【寄付】
餅　武田憲幸　様
キウイフルーツ一箱
大橋充子　様
洗剤・煮豆
相曽明夫　様

【交流】
緑ヶ丘幼稚園　様

【ボランティア】
クラブ指導
飯田いく子　様
左右田慧子　様
鈴木　繁夫　様
武田　憲幸　様
松原　正英　様
三ツ矢ミホ子　様
防災訓練の協力
鴨江北町防災隊　様
同行支援ボランティア
稲垣久美子　様
坂本　昌広　様

観音様の日

毎月十八日は、観音様のご縁日です。導師様にご供養と法話をいただきました。

一月　大安寺住職
　　酒井章英　様
二月　瑞生寺住職
　　左右田丈夫
三月　竜泉寺住職
　　山岸道山　様
《予定のご寺院》
四月　大厳寺　様
五月　万松院　様
六月　光雲寺　様

写真氏名は本人の同意の上、掲載しています。

苦情解決状況

平成27年1～3月分　3/20 現在苦情：2件 希望要望：2件(1件解決3件未解決)

性別	所属	内容	てんまつ
女性	家族	職員に連絡をして欲しいと依頼したが来ていないのはなぜか。	ご家族に謝罪をし、職員には連絡の重要性を周知した。
女性	家族	職員に依頼したものを持たせていないのはどういうことか。	ご家族の意図するものが理解できなかったことを謝罪した。
男性	利用者	園での生活や今後のことについて話を聴いてほしい。	生活相談会で、第三者委員に話を聴いていただいた。
男性	利用者	他の利用者との関係についてなど、個人生活の希望要望の話を聴いてほしい。	生活相談会で、第三者委員に話を聴いていただいた。